学生の確保の見通し等を記載した書類

１．入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み

＜地域枠＞

（１）新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等

広島大学では平成 21 年度より地域枠である「ふるさと枠」を設け，県内高等学校を対象とした推薦入試によって地域医療に貢献する人材を選抜している。このふるさと枠の定員は現在 18 名（うち臨時定員 13 名）であり，医学科全入学者の 15%を占めている。この定員は広島大学が収容できる学生数上限と広島県からの要請数とを勘案して両者の合意により設定されている。令和 8 年 4 月時点で 191 名が卒業し，うち奨学金返還による離脱者は 2 名である。卒業生のうち臨床研修を修了した 139 名が広島県内で知事の指定した公的医療機関に配置されており，うち 62 名が知事の指定した中山間地域医療機関で，また 26 名が知事の指定した医師不足診療科（産婦人科，小児科及び病理診断科）に従事している。他は知事の指定した県内都市部の医療機関で専門研修等を行っている。このようにふるさと枠は県内における医師確保，特に医師不足の顕著な地域や診療科における医師確保に貢献しており，今後もその効果の継続が期待できる。

（２）学生確保の見通し

地域における医師不足の解消が喫緊の課題であることから，令和 8 年度で終了する医学部医学科入学定員の暫定措置分（13 名）について，令和 9 年度に入学定員増（13 名）として収容定員を変更する。この入学定員 13 名については，広島県の策定する地域医療再生計画に基づく卒後一定期間の地域医療等の従事を条件とする奨学金が支給される「ふるさと枠広島県コース」での入学とする。

資料として，「医学部医学科の直近 5 年間の入学試験実施状況」【資料１】を示す。

【資料１】から，医学科の直近 5 年間の志願倍率は，平均 4.53 倍であり，ふるさと枠の直近 5 年間の志願倍率は，平均 3.24 倍である。平成 21 年度のふるさと枠設置時より入学者数が定員を下回った年は無い。また，上記に記載したように，令和 8 年度で入学定員措置が終了する 13 名の入学定員増を要求するものであり，ふるさと枠に関して実際の入学定員の変更はないことからも，これまでと同程度の志願倍率及び定員充足率 100%を維持できるものと考える。

これらのことから，入学定員の増について妥当と判断する。

資料１　「医学部医学科の直近 5 年間の入学試験実施状況」

年度	R4		R5		R6		R7		R8		5年間の平均	
	医学科	うち，ふるさと枠	医学科	うち，ふるさと枠	医学科	うち，ふるさと枠	医学科	うち，ふるさと枠	医学科	うち，ふるさと枠	医学科	うち，ふるさと枠
募集人員	118	18	118	18	118	18	120	18	120	18		
志願者数	693	55	503	57	473	56	563	64	465	60		
志願倍率	5.87	3.05	4.26	3.16	4	3.11	4.69	3.55	3.87	3.33	4.53	3.24
受験者数	635	55	461	57	442	56	507	64	428	60		
合格者数	121	18	120	18	126	18	123	18	123	18		
入学者数	118	18	118	18	118	18	120	18	120	18		
定員充足率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

＜研究医枠＞

（１）新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等

広島大学では，将来的な基礎医学研究医，臨床研究医の確保を目的として，平成 21 年度より，通常の医学科一般選抜枠とは別に，学部 4 年次終了後に大学院博士課程に進学し PhD 取得後，復学する MD-PhD コース（卒業まで 9-10 年間）専用に総合型選抜Ⅱ型を募集人員 5 名（令和 8 年度入試から 7 名）として実施し運用している。

MD-PhD コースとは，医学部卒業前に博士号(PhD)を取得できる研究者養成を目指したコースである。具体的には，学部 4 年次終了後に休学して大学院に入学し，基礎・社会医学系の研究室において 4 年間(早期修了の場合は 3 年間)研究を行い，PhD を取得した後，学部 5 年次に復学するものである。学部卒業とともに医師国家試験に合格して医師免許(MD)を取得すると，「医師・博士(医学)」(MD・PhD)となる。

MD-PhD コースでは，4 年次の「医学研究実習」から本格的に研究を開始し大学院入学後も継続する。大学院 3 年次では，研究進捗報告会での確認を経て，大学院の早期修了を目指し，学位審査を受ける。学位修得後は学部に復学し臨床実習を修め医師国家試験合格を目指す。

この度の臨時定員 2 名は一般選抜枠入学者から MD-PhD コースへ進む学生の普及を積極的に図るもので，日本の医学研究力の維持・促進に寄与する人材を確保することが期待できる。

（２）学生確保の見通し

日本の医学研究レベルの維持・発展のためには，研究に従事可能な医師の人材育成の規模を拡充する必要があることから，地域等における医師養成ニーズにも応えつつ，高度医療人材研究者の人材育成規模を拡充するため，令和 8 年度で終了する医学部入学定員の暫定措置分（2 名）について，令和 9 年度に入学定員増（2 名）として収容定員を変更する。この入学定員 2 名については，総合型選抜Ⅱ型ではなく，一般選抜枠での入学とする。資料として，「医学部医学科の直近 5 年間の入学試験実施状況」【資料２】を示す。

総合型選抜Ⅱ型の直近 5 年間の志願倍率は平均 1.81 倍であり，募集人数 5～7 名に対して，平均 9 名程度の志願者となっており，研究医のニーズはあると判断できる。

医学科の直近 5 年間の志願倍率は平均 4.53 倍を有している。医学部医学科の入学者から MD-PhD コースへの学生の確保に関して，医学部では「研究マインド」の更なる涵養を積極的に図る取り組みを続けてきた。例えば，医学部医学科 4 年生全員を対象とする「医学研究実習」を平成 24 年度に開設し，学生が医学研究の現場を体験し，その重要性を知ることで研究マインドのある医師・医学研究者養成に繋げている。また，基礎研究について，平成 29 年度より自由科目として「先端基盤医学方法論」を新設し，研究方法論の習得を促している。さらに，MD-PhD コース入学者及び卒業者が自らミーティングやホームページ，研究室見学の機会を運用・提供し，一般選抜枠入学者も含め，研究に関する情報共有を図っている。

これらの取組により，一般選抜枠入学者から MD-PhD コースを希望する学生の増加に繋がるものと考える。

これらのことから，入学定員の増について妥当と判断する。

資料２　「医学部医学科の直近５年間の入学試験実施状況」

年度	R4		R5		R6		R7		R8		5年間の平均	
	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型	医学科	うち，総合型選抜Ⅱ型
募集人員	118	5	118	5	118	5	120	5	120	7		
志願者数	693	14	503	9	473	9	563	6	465	10		
志願倍率	5.87	2.8	4.26	1.8	4	1.8	4.69	1.2	3.87	1.43	4.53	1.81
受験者数	635	14	461	9	442	8	507	5	428	6		
合格者数	121	5	120	3	126	4	123	3	123	0		
入学者数	118	5	118	3	118	4	120	3	120	0		
定員充足率	100.00	100.00	100.00	60.00	100.00	80.00	100.00	60.00	100.00	0.00	100.00	60.00

２．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

＜地域枠＞

オープンキャンパス，ふるさと枠入学希望者向けパンフレットの配布，高等学校訪問（模擬授業）等の実施，大学説明会等の参加を通じて，学生の確保に努めている。

資料として，「医学部医学科の直近５年間のオープンキャンパス参加状況」【資料３】を示す。

【資料３】について，オープンキャンパスは抽選制により対面型で実施している。対面での参加可能数に上限があることから，対面により参加できない希望者への対応としてオンラインコンテンツを設け，通年にわたり紹介動画を視聴できる環境を整えている。

なお，オープンキャンパスではふるさと枠在学生からのメッセージ動画を公開している。

また，依頼のあった高等学校へ訪問しての模擬授業の実施については，毎年度継続して行っている。さらに，本学主催の大学説明会への参加はもとより外部の要請を受けて外部主催の大学説明会にも参加し，本学科の入試案内等を行っている。

ふるさと枠に特化した取り組みとしては，ふるさと枠入学希望者向けのパンフレットを毎年作成し，県内高等学校及び入学希望者に配布するとともに，インターネット上に公開している。また，広島県と協力し，ふるさと枠受験希望者向けのセミナー（「広島県地域医療セミナー」）を中山間地の病院を会場として開催しており，令和７年度は111 名の参加者があった。さらにふるさと枠の紹介動画を令和４年７月 25 日からインターネット上に公開しており，これまでの再生回数は約 7400 回となっている。

これらの取組により，本学科へ高い関心を持ってもらえることで志願者数を維持でき，入学定員の確保が可能となる。

＜研究医枠＞

オープンキャンパス，高校生向け公開講座，高等学校訪問（模擬授業）等の実施，大学説明会等の参加を通じて，学生の確保に努めている。

資料として，「医学部医学科の直近５年間のオープンキャンパス参加状況」【資料３】を示す。

【資料３】について，オープンキャンパスは抽選制により対面型で実施している。対面での参加可能数に上限があることから，対面により参加できない希望者への対応としてオンラインコンテンツを設け，通年にわたり紹介動画を視聴できる環境を整えて

いる。

なおオープンキャンパスでは，対面での参加者に向け研究室，施設等の見学を行うキャンパスツアーを実施している。

また，高校生向け公開講座として「先端医療は今」を毎年継続して開講している。

MD-PhD コースの取り組みとして，ホームページを開設し，本コースの活動状況（授業・自主勉強会の様子，コース生の紹介）を随時公開している。さらに公式 X（旧ツイッター）も開設し，受験希望者からの様々な質問にリプライできる状況も整えており，受験希望者が本コースをより身近に実感できるように努めている。加えて，一般選抜入学者から MD-PhD コースへの参加希望者の増加に繋げる方策として，4 年次生を対象に専門教育科目「医学研究実習」を開設している。当該科目は，研究指導者とコミュニケーションをとり，実験の背景を知り，実験計画の立案・実験手技の実践を行う等，研究の過程を体験させることとしており，学生への「研究マインド」の涵養と研究力向上を目的としている。

なお，当該科目の成果発表会について，当該科目履修者である 4 年次生のほか 1～3 年次生も参加させることにより，MD-PhD コース入学者のほか一般選抜枠入学者も含め，「研究マインド」の更なる普及を積極的に図っている。これにより，一般選抜枠入学者の間で MD-PhD コースの認知度が高まり，基礎医学研究室で研究を行っている一般選抜枠の学生は 1～3 年次生に平均 4 名以上在籍している。今後も研究医の増員を目指す取り組みを効果的に継続することで MD-PhD コース進学者の確保に繋がると考えられる。

これらの取組により，本学科へ高い関心を持ってもらえることで志願者数を維持でき，入学定員の確保が可能となる。

資料３ 「医学部医学科の直近 5 年間のオープンキャンパス参加状況」

R4	R5	R6	R7	R8
103	97	107	105	106
抽選制で実施（対面） 医学科参加者数	抽選制で実施（対面） 医学科参加者数	抽選制で実施（対面） 医学科参加者数	抽選制で実施（対面） 医学科参加者数	抽選制で実施（対面） 医学科参加者数

３．養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

＜地域枠＞

（１）人材需要の地域・社会的動向等

広島県の単位人口あたりの年間医師養成数は 47 都道府県中 41 位と低く，医師の需要に対して供給能力に課題がある。この指標が広島県より下位の都道府県はほとんどが東京都あるいは大阪府に隣接しており大都市圏の医療に依存可能であることを考慮すると，実質的に全国で最も医師供給力に課題のある都道府県と言える。さらに厚生労働省令和 7 年度無医地区等調査によると広島県の無医地区数は 47 都道府県中第 2 位となっている。

したがって県で唯一の医師養成課程を持つ広島大学による医師供給力，とりわけ広島県内に定着する医師の供給力が強く求められている状況である。

＜研究医枠＞

（１）人材需要の地域・社会的動向等

臨床実習の必修化，専門医制度の厳格化に伴う基礎医学研究医や臨床研究医（physician scientist）の減少が日本の医学研究の衰退に繋がっていると指摘されて久しいが，この状況を好転させるような画期的な方策は見いだせないのが現状である。

さらに，医師の働き方改革が令和 6 年 4 月から施行され，医学研究力復活への懸念が増している。このような状況下において，研究に従事可能な医師を確保するための方策を講じることは，日本の医学研究レベルの維持・発展のための喫緊の案件となっている。

広島大学は，2026 年分野別 QS 世界大学ランキング（QS World University Rankings by Subject）医学分野で全国 11 位，中国・四国地方で 1 位と，日本の医学研究をリードする立場にある。加えて，広島県で唯一の医師養成課程を持つ大学であり，広島県内における研究医供給を一手に担っている。

広島県での医学研究力の確保には，広島大学による医師供給力が強く求められている状況である。さらに，今回の入学枠の増員は，広島県・広島大学のみならず，日本全体の医学研究力の増進に繋がるものと考える。